

# 政策調査情報

連合北海道総合政策局

## 2022年度「幌延深地層研究監視連絡会」を開催

連合北海道は10月5日(水)、「2022年度 幌延深地層研究監視連絡会」(代表:連合北海道 藤盛事務局長)を開催し、12名のメンバーが参加して、深度250 ㍎調査坑道や地上研究施設を視察した。視察後に開かれた監視連絡会では、今後の取組と役員構成を確認し、監視活動の継続・強化に向けて視察へのオブ参加を拡大するなど周知活動の強化に取り組むこととした。

### 幌延深地層研究センターと連合北海道幌延深地層研究監視連絡会

国立開発研究法人日本原子力研究開発機構(JAEA)の「幌延深地層研究センター」は、2001年3月に調査を開始し、2005年11月から坑道の掘削工事を開始しました。同センターは、高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発施設で、開設時に北海道・幌延町・サイクル機構により締結された「3者協定」に基づき、◎放射性廃棄物の持ち込みや使用はしない、◎研究終了後は、地下施設を埋め戻す、◎研究実施区域を放射性廃棄物の最終処分場とせず、中間貯蔵施設も設置しないことが約束されています。

連合北海道は、「3者協定」が確実に履行されるよう、2002年から監視連絡会や視察を通じた監視活動をはじめ、国や道に対する政策要求をおこなっています。

連合北海道 幌延深地層監視連絡会 【構成メンバー】	
・	連合北海道
・	宗谷地域協議会
・	留萌地域協議会
・	上川地域協議会
・	天塩地区連合会
・	中川地区連合会
・	豊富地区連合会
・	幌延地区連合会
・	猿払地区連合会
・	浜頓別地区連合会
・	中頓別地区連合会

### 2班に分かれて地下の調査坑道と地上の研究センターを視察

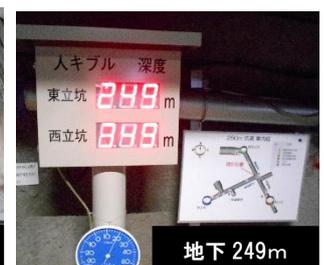
幌延深地層研究センターの柴田所長からご挨拶をいただき、研究の概要説明を受けた後、2班に分かれて地下250 ㍎の調査坑道と研究紹介施設「ゆめ地創館」を視察しました。

地下坑道には、キブルと呼ばれる工事用エレベーターで降りていきます。視察当日は、500 ㍎への掘削に向けて資材搬入や調査等が行われており、350 ㍎調査坑道への立ち入りは難しいことから250 ㍎坑道での視察となりました。

作業着に安全靴、ヘルメット、軍手、ライト、落下防止の携帯ケースなどを身に付けた参加者は、坑道内のポイントごとに説明を受けました。



降りてきたキブル



地下249m

### 研究紹介施設「ゆめ地創館」



人工バリアの展示

ゆめ地創館は、高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究内容について紹介する施設です。広く一般公開されており、毎週月曜日の定休日以外は無料で見学できます。

また、原子力環境整備促進・資金管理センターが運営する「地層処分実規模試験施設」が併設され、人工バリアの実物やPEM模型が展示されています。



装備品を身に付けて...

### 連合北海道 幌延深地層研究監視連絡会

視察後には、「ゆめ地創館」内の会議室において2022年度監視連絡会を開催し、役員体制、今後の取組などを確認しました。2002年から続く監視連絡会ですが、関係する3地域協議会や地区連合の役員交代もあり、今回は、改めてセンター開設当時の経緯や連合北海道のスタンスを振り返り情報共有をしました。

幌延センターは、「令和2年度以降の研究計画」により研究期間が延長され、深度500 ㍎までの掘削や国際共同プロジェクトの実施が計画されています。連合北海道は、「3者協定」が確実に履行され、2028年度までに研究が終了するよう監視活動を継続することとし、今後、視察参加者の拡大など周知活動の強化に取り組んでいきます。

幌延深地層研究センターHP <https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/>

ゆめ地創館HP <https://www.jaea.go.jp/04/horonobe/yumechisoukan/index.html>